



石坂ファーム 石坂寿浩さん

スマート農業とは？

ロボットやAI（人工知能）、IoT（モノのインターネット）など先進技術を活用する農業。深刻な担い手不足の中、省力化や負担軽減につながる注目されています。



農業体験しませんか？

旭川市民農業大学

農作業・農産加工を体験し、農村文化に触れ、農業者と市民と一緒に旭川の農業や食について考えます。

子ども農業体験塾

市内の小学4～6年生が、田植えや稲刈り、果樹の収穫や酪農を体験。秋には料理を作って食べる収穫祭もあります。



市では、グリーンツーリズム（農村観光）のガイドブックを作成しています。農業体験できる農園や、農家民泊などを紹介しています。

田 植え機とトラクターにGPSを搭載し、運転席のモニターで進路や位置を見て作業しています。約5年前、市の助成でGPSの基地局が設置されたことを機に、効率化のため導入しました。

田植えでは数百m先まで見通して真っすぐ進み、苗の植付けをチェックする必要があります。約46ヘクタールの水田があり、短期間で田植えを行います。自動操舵もできる田植え機は、GPSのおかげで定規で線を引くように走れ、以前と比べ操作も簡単になりました。私が体調不良のときには、従業員が作業することもあります。

田起こしに使うトラクターは、作業機の幅が広く、畔に接触しないように周囲を確認しながら作業するのが難点でした。それもGPS機能により、従業員はどこを走行しているか一目で分かるため、安全に運転できるようになり、教える時間も減少しました。暗くても雨天でも作業できます。

今は人手不足で一戸当たりの作付面積が年々増加し、生産者の負担も増えています。スマート農業で効率化できれば、自分の時間もつくりやすいと思います。

スゴイ！ 一步先へ。 スマート農業で 効率化



GPSを搭載したトラクター



旭 川農業高校では、生徒自ら栽培した酒米を使った酒造りに挑戦しています。市内の老舗「高砂酒造」や、米作りのプロなどと一緒に取り組む「旭農高日本酒プロジェクト」です。

同校での酒米生産は初めて。寒さに強い「きたしずく」の種をまきハウスで育て、校内にある3,750㎡の水田に植えました。今夏の厳しい暑さの中、稲の管理を徹底。順調に成長し、一等米の評価を得ました。

生徒たちは四合瓶4,000本分を予定する醸造の一部や、ラベルデザインを体験。酒粕の加工品開発も手掛けます。完成したお酒は、生徒が20歳になると贈られます。

スゴイ！ 高校生の酒米で 新しい日本酒を



プロジェクトに挑戦する生徒たち

元気にしたいです



旭川農業高校3年生 羽根有哉さん、伊藤蒼良さん

素晴らしいお酒になってほしいです。地域との連携や新技術で、農業を盛り上げたいです



米 収穫量 全道 1位

伏流水と盆地が育む「米どころ」

大雪山からの伏流水と盆地特有の寒暖差で、おいしい米が育ちます。令和2年産の作付面積は道内2位、収穫量は道内1位でした。



首都圏でも人気「江丹別そば」

市内の主なソバ産地は江丹別です。製粉工場で挽きたてのソバを首都圏へ直送し、高く評価されています。

ソバ 作付面積 全国 3位



旭川の農業は ここがスゴイ

豊かな自然で育った旭川の農作物には、全国に誇れる品質や収穫量、多様さがあります。先進技術で挑戦する農家や、丹精して酒米を育てる高校生、担い手の個性も光ります。旭川の農業の魅力を紹介します。
【詳細】農政課 25・7417



栽培野菜

都市近郊型の 多彩な野菜作り

60 品目

少量・多品目が特徴で、市内の栽培品目は約60に上ります。シュンギクやチンゲンサイの令和2年産の出荷量は道内一。寒締めホウレンソウなど、冬野菜の生産も広がっています。



シュンギク チンゲンサイ 出荷量 全道 1位



「クリーン農産物」は道内最多

農業や化学肥料を減らすなど、環境に配慮した農産物を、北海道が「北のクリーン農産物表示制度（YES! clean）」で認証します。市内では、道内最多の17品目・19集団が認証されています。

【詳細】農業振興課 25・7438



北海道安心ラベル

旭川産の野菜を食べよう

旭川青果連ではロゴマークを統一し、品目ごとに異なる動物のイラストを旭川産野菜のパッケージに印刷しています。新鮮で旬な地元の野菜を、ぜひ買い求めください。

【詳細】農業振興課 25・7438

このマークが目印！

